

## 令和 7 年度（2025 年度） 第 1 回柏崎市健康づくり健推進会議 会議報告

**開催日時** 令和 7 年（2025 年）8 月 7 日（木）15：00～17：00

**会 場** 柏崎市健康管理センター3 階 集団指導室  
**議 事**

**(1) 第 2 次健康増進計画の概要と推進体制** （意見なし）

**(2) 令和 7 年度（2025 年度）重点課題の取組について**

**「運動を習慣化する人・身体活動量を増やすための取組の強化」**

- ・グッピーヘルスケアの登録者は 40～50 代が中心で、若い世代の登録が少ない状況である。若年層は自分には関係ないと捉えがちであり、学校や地域を通じた周知・啓発ができるとよい。
- マイナンバーカード登録時の支援のように、地域のコミュニティセンター等で登録方法を案内するなど、身近な場所でのサポート体制が有効と思う。
- ・学校教育課で実施している「小児生活習慣病検診・保健指導」は、血液検査や血圧測定の自己負担が無いことは、受診者の減少を防ぐうえでよいと思う。
- ・総合体育館やアクアパークの利用はコロナ禍以降徐々に回復しているが、完全には戻っていない。アリーナに冷暖房が常時入るようになったことや、トレーニング器具の更新、体組成測定器（InBody）の無料利用などにより、自己管理を目的とした利用者が増加している。今後は、健康教室やスポーツ教室などの機会の拡充を考えている。冷暖房の整備など、安全・快適に運動できる環境が整っていることを広く P R し、施設利用を促進していくとよいと思う。

**(3) 健康みらい柏崎 21（素案）について**

**ア 計画策定にあたって**

**計画策定の背景と趣旨・計画の位置づけ等** （意見なし）

**イ 柏崎市の現状について**

**ウ 健康みらい柏崎 21 の方向性について**

**基本理念・基本方針、健康増進計画の取組の方向性**

**【質疑】**

- ・令和 4 年度の合計特殊出生率が国・県より高いことについて、何か分析を行っているか。  
 (事務局回答) 合計特殊出生率が高い背景については、現時点では明確な分析はしていない。  
 全体として出生率は低下傾向にあるが、人口構成などにより市町村単位での変動は起こり得ることである。
- ・運動量の減少と肥満の増加について、運動量が減った原因は何か。SNS やコロナ禍の影響が大きいのか。コロナ禍の影響であれば、今後は回復の兆しが見られると思う。  
 (事務局回答) コロナ禍により運動の定期教室が中止され、外出機会の減少や、学校でも接触を避けるため、運動機会が減少したことは要因の一つと考えている。
- ・要介護・要支援認定者数の推移について、減少傾向が見られるが、自分の地域では増加している。減少傾向が本当に当てはまるのか。

(事務局回答) 高齢者の割合は増加しているが、要介護認定者は減少している。数値に変動はあるが、全体としては減少傾向にある。

### 【意見】

- ・子どもの活動には保護者の送迎などの協力が必要であり、保護者の就労状況によっては、子どもが参加したくてもできない状況が顕著になってきている。また、経済状況によっても運動習慣が左右される傾向があり、リーマンショックの際は運動する人が増えた一方、景気が回復すると働く時間が増え、活動時間が減少する傾向が見られた。スポーツ施設は「余暇を過ごす場所」と言われるよう、経済的・時間的なゆとりがなければ利用しづらく、社会環境の影響を受けやすい。近年では中学生の運動部活動への参加が減少しており、学校での運動経験の不足が懸念される。子どもの頃から運動に親しむ習慣を身につけることが大切であり、民間を含め地域全体で子どもが運動に取り組みやすい環境づくりを進めていく必要がある。
- ・学校現場としてはコロナ禍の影響が大きかった。現状ではのびのびと活動しているが、昔に比べ、運動する環境が制限されている部分がある。学校内全てに冷房が効いているわけではないので、気温上昇時には涼しいところで静かに過ごしてもらうことになってしまう。年間で限られている期間だとしても、年々とその期間が延びてきており、1年を通して気兼ねなく子どもたちが体を動かす場面は制限がかかってきている。クラブや部活動以外で運動に接する機会もあるが、送迎など家庭の状況によっては子どもが望んでいても難しい状況があると思う。柏崎市でも土日の部活動がなくなっていく中で、地域クラブという展開が進んでいることも健康増進には非常に重要な要素なので、平日の部活動での体を動かす場面を含めて、進めていけるといい。
- ・朝食を食べて来ないという子どもたちが少なくないという現状の中で、体調を崩して保健室で休む子どももあり、適正な食習慣を定着していくことは、学校現場として非常に大きな課題だと感じている。
- ・柏崎市はヘモグロビンエーワンシーが高い人が他市町村より多いが、測定方法により数値差が生じる可能性があり、柏崎市は比較的厳密な方法で測定しているため高く出ている可能性も考えられる。
- ・地域では介護認定の仕組みを十分に理解していない高齢者も多い。介護サービスや健康づくりに関する情報を知らない高齢者も多いため、広報の工夫や周知強化の必要がある。
- ・高齢者は減少していても、介護予備軍にあたる高齢者は多いので、そのような方への見守りや支援を充実させて欲しい。声を上げにくい高齢者へのアプローチが今後も重要である。
- ・過去には「将来の安心のための介護認定申請」が多くあったが、現在は必要性を重視する方向に変化しており、それも認定率減少の一因と考えられる。
- ・地域包括支援センターの訪問支援が本人・家族にとって大変有効であったとの実体験から、今後も継続的な連携と支援体制の強化があるとよい。

#### (4) 自殺対策行動計画について

##### 【質疑】

- ・ゲートキーパー研修が各所で行われているが、ブラッシュアップ研修会のようなものは開催されているか。

（事務局回答）近年は基礎編のゲートキーパー研修を主に実施しているが、今度のニーズに応じてブラッシュアップ研修も実施を検討したい。

- ・素案で「自殺率」と「自殺死亡率」が混在している箇所があるが、区別に意味があるのか。

（事務局回答）同じ意味であり、「自殺死亡率」で表記を統一する。

##### 【意見】

- ・見守り活動を継続する上で、研修資料や知識の更新が地域での支援に役立つため、ゲートキーパー研修の基礎編だけでなく、既受講者を対象とした研修会もあるとよい。地域全体で見守る体制づくりは重要なので、継続してお願いしたい。
- ・いかにセーフティーネットを広げるかが自殺対策の基本であり、市として計画的に支援体制を構築することが重要である。
- ・自殺対策を進める際は、少し気を抜いた時に危険な状態が生じことがあるため、下地作りを醸成できるような計画となるとよい。

#### (5) 今後のスケジュールについて（意見なし）